

読んでスッキリ♪ いまさら聞けない？
話題のニュースを学べるマガジン

ご参考資料 ピクテ投信投資顧問

Bonjour

ボンジュール!!

2015年
2月5日号

Vol.204



一転して反転、原油価格の今後はどうなる？

● 動き始めた原油価格

昨年から大幅に下落している原油価格ですが、足元では少し動きが見え始めています。1月28日に1バレル44ドル台まで下落していましたが、翌日から上昇し始め、2月3日には53ドル台をつけ、4日間で19%も上昇しました。もちろん、急落したことによる反発もありますが、今回の反転の要因としては以下が考えられます。

● 反転の要因は？

① 在庫満タン

原油は、掘り出した後にそのまま保管することができないため、通常では、備蓄施設などで保管されます。

今回、原油価格が下落しても減産されなかったため、備蓄施設が満タンとなり、タンカーなどに保管先を移していますが、こちらもパンパンのフル稼働な状況で、過去最高の在庫水準となっています。

そのため、「やむなく減産」の可能性が高まっています。

② オイルメジャーが設備投資削減

先日、英国の石油大手であるBPが2015年の設備投資計画を引き下げました。

原油安を背景に、ついにオイルメジャーが動き始めたかとも見ることもできるかもしれません。

● シェア争い、ガチンコ勝負

では、なぜそもそも原油価格が下落したのでしょうか？

原油安は、世界経済の需要減速もありますが、OPEC(石油輸出国機構)と米国のシェールオイルとのシェア争いが背景にあると思われます。

通常、原油が供給過剰と判断されれば、サウジなどOPEC加盟国を中心に減産しますが、今回は減産を行いませんでした。

その理由は、たとえ、減産したとしても米国シェール企業などにシェアを奪われてしまうからです。

米国はシェール革命により2020年までに世界最大の産油国であるサウジアラビアを抜いて、世界最大の原油産出国となることが予想されています。

このため、原油価格を意図的に下げてOPEC加盟国よりも生産コストが高い米国のシェールオイル企業の減産や撤退などを狙っていると思われます。

英国の石油大手であるBPのCEOは、原油価格の回復には、慎重な姿勢で今のレンジから抜け出すには3年かかる可能性があるとしています。

いずれにしても、下落の一途を辿っていた原油価格ですが、これまでとは違う動きができたことには要注目です。

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。